

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	立川市環境審議会
開催日時	令和3年7月2日（金曜日）15時～16時25分
開催場所	立川市役所本庁舎2階210会議室
次第	1. 令和2年度家庭で取り組むエコチャレンジ優良事例審査 2. 低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策の評価シートについて 3. 環境ブック特集について
配布資料	（事前配布） 説明資料 低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策の評価シートについて 資料1 低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策の評価シート 資料2 施策の評価方法について 低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策の評価シート 記入例、説明 資料3 低炭素まちづくりとは 立川市における取組 資料4 低炭素まちづくり評価シートにある「長期総合計画 後期基本計画」の施策と基本事業とは 資料5 立川市第4次長期総合計画 後期基本計画施策・基本事業一覧 資料6 施策12 持続可能な環境の保全 別冊 立川市第4次長期総合計画 後期基本計画 概要版 資料7 令和2年度 家庭で取り組むエコチャレンジ審査表（優良事例賞候補チーム） 資料8 令和2年度 家庭で取り組むエコチャレンジ事前審査採点結果 参考資料 立川市家庭で取り組むエコチャレンジ審査・表彰要領 資料9 環境ブック特集について 資料10 第12期立川市環境審議会名簿
出席者	〔委員〕 片野 勸、加藤 禮子、山田 廣幸、齋藤 孚彦、甲野 毅、村田 佳壽子、山下 英俊、中島 孝昌、岡村 優子、遠藤 智志、佐藤 達哉、田中 準也（敬称略） 〔事務局〕 小倉 秀夫（環境下水道部長）、横塚 浩一（環境対策課長）、村上 満生（環境推進係長）、小宮山 英稔（環境指導係長）、石原 光胤（温暖化対策係長）、山口 文寿（環境推進係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	1. 令和2年度家庭で取り組むエコチャレンジ優良事例に、審議会委員の事前審査で複数票を獲得した4チームを選出した。 2. 事務局作成の低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策評価シートを提示した。委員の意見をもとに、評価シートを修正し委員に送付する。 3. 環境ブック2021の特集内容について、事務局案の「再生可能エネルギーについて」が了承された。
担当	環境下水道部環境対策課環境推進係 電話 042-528-4341

第 12 期 第 3 回立川市環境審議会 会議録

開催日時 令和 3 年 7 月 2 日（金曜日） 15 時～16 時 25 分

開催場所 立川市役所本庁舎 210 会議室

出席者〔委員〕片野 勸、加藤 禮子、山田 廣幸、齋藤 孚彦、甲野 毅、
村田 佳壽子、山下 英俊、中島 孝昌、岡村 優子、遠藤 智志、
佐藤 達哉、田中 準也（敬称略）

〔事務局〕小倉 秀夫（環境下水道部長）、横塚 浩一（環境対策課長）、
村上 満生（環境推進係長）、小宮山 英稔（環境指導係長）、
石原 光胤（温暖化対策係長）、山口 文寿（環境推進係）

- 1 令和 2 年度家庭で取り組むエコチャレンジ優良事例審査
事務局より、審議会委員の事前審査で複数票を獲得した 4 チームを優良事例に選出したいことを説明した。

○委員意見

- ・特に意見はなく、事務局提案どおり 4 チームを優良事例に選出した。

- 2 低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策の評価シートについて

事務局より、低炭素まちづくりの概念を取り入れた施策の評価シートについて説明を行った後、各委員から意見をいただいた。

○委員意見

- ・施策 12 を使って説明したが、37 施策すべてを評価することで良いか？施策に関連する個別事業にもとづき評価することで良いか？
⇒その通りです。（事務局）
- ・建物の改修等ハード面も大切だが、どういう社会、働き方を目指すかを評価の中に入れられたら良い。行政事務も本当に必要かどうか考えることが大切になる。
⇒人事に係る施策で関連がある。（事務局）
⇒新型コロナウイルス感染症によって、テレワークなど様々に社会が変わった。様子を見る必要がある。（事務局）
- ・環境という視点から仕事を見る必要性がある。今まで見ていない面がある。
- ・人事に係る施策 37 に環境面での取り組みを評価する仕組みを取り入れることが出来るのではないか。
⇒取り入れることは可能。（事務局）
- ・取り入れて評価が出来れば良い。
- ・評価シートで①低炭素化を進める事業で、実施している事務事業とこれから行う事業の区分はどうなっているか？評価の点数が妥当かどうか分からない。

- ・実施している事業の事業進捗度が平均 3.5 以上なら良いとなっているが、事業実施中の場合、事業進捗度は 4 となっている。これでは、実施中の事業は 4 と評価され、3.5 以上という基準が無意味になる。
⇒内容について確認します。(事務局)
- ・評価シートに記載されている Z E B の定義が正しいか？評価シートの中で使われている市民事業者という文言がわかりにくいので、市民・事業者の方が良いのではないか。
⇒確認します。市民・事業者に変更します。(事務局)
- ・公共施設のエネルギー起源温室効果ガス削減目標が、2030 年に 2013 年比 40%削減となっているが、計画があるのかどうか？
⇒第 2 期立川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）として計画がある。(事務局)
- ・国の計画によって変更するのか？
⇒今後の国からの指針によって、変更する。(事務局)
- ・評価シートの行政事務での低炭素化を評価する項目に、グリーン購入法による調達と環境配慮契約法等での契約があるが、この 2 項目は内容によってバッティングする内容があるので、どちらか一方を行っていったら良いのではないか。
⇒修正を考えます。(事務局)
- ・評価の一連の流れは、評価→発表→各部署へのフィードバックというイメージか。
⇒庁内では推進委員会、推進本部で評価をフィードバックすることを考える。対外には環境ブックで発表する。(事務局)
- ・評価シートは初めてのものであるが、シートは決まったらずっと使うのか、変更するのか？
⇒実際に評価する側の意見もでてくるので、修正は考えている。(事務局)
- ・フレキシブルに変えていくことで了解。
- ・子育て支援等の施策は、この評価シートでうまく評価できるか確認した方が良い。低炭素を意識して事業を行っていないので、該当事業がないと回答されてしまう。
- ・回答しにくい部署もある。低炭素な活動がどのくらいできるか問いかけが必要。
- ・統一的なシートではなく、各部署に対応した質的な調査が良いのでは？
⇒調査依頼をして各課担当者とやりとりをする。環境についての新たな考えを知ってもらうことも評価を行ううえで意味がある。(事務局)
施策別の評価は審議会で伝える。(事務局)
- ・子ども・学び・文化を評価シートでうまく評価できるのか？優劣をつけるのではなく、現状を把握するという意味でならよい。
- ・評価シートをどれだけ理解できるか、簡素化出来れば良い。
⇒簡易にできるところがあれば修正する。(事務局)
- ・まずはやってみる。委員の意見を反映した新しい評価シートを確認したい。
⇒修正した評価シートを委員に送付する。(事務局)

3 環境ブック特集について

事務局より、環境ブック2021の特集を「再生可能エネルギーについて」としたい旨を提案した。

○委員意見

- ・立川市に密接した内容で再生可能エネルギーについて紹介してほしい。姉妹都市の大町市は水力発電が盛ん、マイクロ水力は立川市でも可能。
- ・再生可能エネルギーへの市民の関心を高め、使いたいと思わせるように。
- ・異常気象と結びつけて、再生可能エネルギーの話をしてほしい。
- ・再生可能エネルギーを取り入れる原因にも言及してほしい。
- ・環境は幅が広いので、低炭素社会への具体的な取組を紹介した方が良い。
- ・再生可能エネルギーでよい。ごみ問題は重要なので、また取り上げてみてはどうか。
- ・専門書ではないので、工夫して作成してほしい。